

佐保台小学校稲刈り・レポ

佐竹 樹之

猛暑の日々が終わりを告げ、ようやく（いや急に）涼しくなったこの時期、6月に田植えした「さよむらさき」が頭（こうべ）を垂れ、収穫を待ちわびるかのようです。「ならやま」の活動地に着くと、入口で私たちを歓迎するかのように見える田んぼで今日、待望の「稲刈り」です。本番前に、鈴木顧問から会員スタッフに、あらましや注意点の説明がありました。今日の主役は「佐保台小学校5年生」です。校長先生を始め3人の先生方に引率され、24名の児童が到着しました。

千載会長が歓迎の挨拶をして、さらに5年生代表の挨拶がありました。田植えの後、この田んぼを見に来たか尋ねたところ、児童が一人居たのには、少々驚きました。次に、鈴木顧問がパネルを見せながら、作業のさまざまな注意点を説明し、児童は静かに耳を傾けていました。その後児童は、12名ずつの2班に分かれ、稲刈りをする田んぼに移動しました。

いよいよ、刈り取り本番です。まず12名が田んぼに入り横並びになり、一株ずつ鎌で刈っていきます。驚いたのは、説明を忘れたのか鎌を引かずにたたいている子、株元近くを握らずに、株の中程を持って苦戦する子、いろいろな



児童の動きがありました。続いて次の12名が6株単位で、麻ひもを使い束ねていきます。この時も、説明のように束ねることが出来ない子、

ひもの締め方が緩いのか、稲わらが運ぶ途中で、バラバラになってしまう子がありました。

そこで周りの会員スタッフが、実際にして見せてようやく理解している様子でした。練習無しのぶっつけ本番であれば、仕方ありません。次に、刈り終わった場所に会員スタッフが竹で稲架（はざ、俗に馬と呼ぶ）を組み立て、そこに稲わらの束を、一つずつ半分に等分し掛けていきます。この時も、麻ひもで束ねた位置が稲の株元から離れ過ぎていて、稲架からおちるものがありました。これも会員スタッフが修正し3台の美しい稲架が完成しました。



稲架掛けが終わり、畝で2人の児童が互いに「自然っていいね」「そうやね」と話していました。今日の体験がきっかけになり、この自然環境の大切さを体感し、こうした活動に関心を持ち続けてもらえればと切に感じました。また、児童から「手作業は大変だったけど、人の手でやれたことは楽しかった」との感想を聞くことが出来たことも、大変有り難く思いました。また、「何日位干すのですか？」との問いに、鈴木顧問が「7日から10日位天日干しすると、ゆっくり乾燥させるので、旨味がぎゅっと詰まったお米になります」と答えていました。正に、収穫の喜びを皆で分かち合い、手間ひまをかけたお米を頂く幸せも、かけがえのないものだと感じました。秋の装いが深まる「ならやま」での、楽しく有意義な体験を、児童と共に味わうことが出来たこと、雨も降らず、参加者全員が無く終えることが出来たことに、感謝感謝です。